

令和4年度 大阪府立福井高等学校 第2回学校運営協議会

日時 令和4年11月16日 10時00分～11時00分

場所 本校校長室

内容

1 校長あいさつ

- ・本校の近況と大阪府教育振興基本計画について

2 運営協議会委員・事務局員紹介

(省略)

3 事務局より報告

- ・現状と課題

令和4年11月8日の大阪府教育委員会会議の内容(高等学校再編整備計画)を受けて、本校の現状(在籍生徒数・通学範囲の特徴ほか)と課題を分析。

課題への対応として授業内容や広報活動(説明会の実施状況、中学校への訪問や連携など)について説明。

- ・スクールミッション

新しい教育振興基本計画に基づく本校のスクールミッションについて説明。

「夢・発見・実現」を校訓とし、総合学科で「ドリカム」授業をコアカリキュラムとして長年取り組んできたことを、日本語指導・多文化共生であることも生かして策定中。キーワードとしては「小さな総合学科」・「地元茨木で豊かに暮らす」(図参照)。

- ・令和5年度「小さな総合学科」に向けて

募集生徒数が4学級規模となったこと。通学生徒の大半が茨木市北部とその周辺の生徒であること。日本語指導生徒が全校の1割以上いること。以上を基に、総花的な総合学科ではなく、生徒の現状とニーズを踏まえた「小さな総合学科」を展開し、地元茨木を中心にした場所で社会貢献し、いろいろな意味で豊かに暮らすことを目標にする。

出口 (出口)

「夢・発見・実現」。総合学科高校の特色を活かし、「ドリカム」授業をコアカリキュラムとし、各系列での学習を通して生徒の興味や関心に応じた幅広い知識や技能を習得させるとともに、学校全体での人権教育・生徒支援・生徒指導のうえに、キャリア教育・教科指導等を密接に連携させて、きめ細かい支援・指導を行い、生徒一人ひとりの「道路実現」を具現する。

- 1 将来に夢と希望を持ちながら自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く継続する力を育成する。
- 2 多様な社会の流れや課題の本質を理解し、高い自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 3 地域との繋がり人との繋がりを大切に、互いに助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 4 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校として、外国にルーツを持つ生徒への適切な支援を行うとともに、多文化共生を推進する。

内容 (内容)

ちいさな総合学科

5系列の多様な選択科目で習得した知識(ハードスキル)を、ドリカム(産業社会と人間、総合的な学習の時間)などで活用して、生きた知恵を身につけることができる。

地元茨木で豊かに暮らす

知識をためず場で問題にぶつかったときに、自分とはちがうバックグラウンドで育ってきた仲間や教職員、地域からの教育ボランティアなど様々な人と協働することで、豊かな暮らしに役立つソフトスキルを系統的に身につけることができる

入口 (入口)

高校生活への意欲 人間関係がうまく保てない 学業不振 母語の問題 障がいの問題

中学校との連携 人間関係づくり 基礎学力の充実・定着 母語の支援と仲間づくり 障がいの支援と仲間づくり

○異なる経歴や人種などの自分とはちがうバックグラウンドで育ってきた仲間と、ともに学ぶ経験を通して生徒のソフトスキルの育成を図ることができる環境

ソフトスキルとは：パソコンのタイピング能力などのハードスキルのようにはっきり見て取れる能力ではない、異なる経歴や人種などのバックグラウンドを持つ人とコミュニケーションを取れる能力や適応力、チームワークや課題解決を推進するソフトスキルは変化の激しい近年、企業の採用にも重視されている。

4 質疑応答（委員のご意見）

- 校訓は不変とは限らない。時代とともに必要なことは変わる。いま生徒に必要なことを認知度も高い「夢・発見・実現」で校訓とされること、良いと思う。あわせて、他にもスクラップ&ビルドをすること。同じ範疇の内容のものであれば、より必要なものを選んで行くこと。
- 募集停止を「機能統合」というのなら、福井高校が果たしている機能を統合できる相手はあるのか。地元との結びつき、また日本語指導・多文化共生のこと。福井高校の意味は人数の多少では測れない。
- 少人数であることは、ひとり一人に目を向けられる環境があるということで、また実際そうだと思う。いい学校だともっと発信して欲しい。
- 地元との関係が濃いことをさらに深めていって欲しい。たとえば中学校では「職業体験」を実施している。高校ではそれが「保育実習」という授業に繋がっていきなどしていると思うが、そのように中学校での体験が高校ではさらにバージョンアップして体験できるようにしていければと思う。たとえばボランティア体験など活用できると思おう。中学校でのことが高校で深まるようお願いしたい。また中学生が高校により関心を持つように、福井高校の特徴や魅力を中学生に伝えに来て欲しい。日本語指導の生徒が多文化共生の様子を話に来てくれるとか、ドリカム授業で学んだことをゲストティーチャーとして話すとかなどもして欲しい。
- 校訓や目標を、生徒にどうわかりやすく伝えるかを考えて欲しい。たとえば、いろいろな意味で、入学したときからしんどい生徒もいるはず。そのような生徒には最初に「この学校はあなたを卒業させるつもりだよ」が何より伝わらないといけない。そのために朝～夕の生活リズムが必要なこと、まず毎日遅刻せずに来てねと指導が始まっていくことが伝わらないとうまく行かない。「遅れたらダメだ」「…それでは進級・卒業できない」と都度指摘指導することではしんどい生徒への成果にはつながらない。障がい者就労・ジョブコーチ、また困窮支援など、いろいろな支援制度もある。種々の困り感についての支援の用意もあるので、地元との連携をもっとどうぞ。頼ってきてください。
- 高校生と地域の人が自然と交わるような常時の場もできればいいと思う。高校の中に、常時地域の人が入れるような場所を作れないだろうか。コロナ禍で人が集まれる場所が減った。無くなってしまっている。高校が市民の居場所となり、またそこが市民と高校生が交流できる場所になったらいいと思う。